

(様式3)

## 自己評価結果票 (大空)

| 項 目                | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                             | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目)                                                                             | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む) |                                                                                                |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>Ⅰ. 理念に基づく運営</b> |                                                                             |                                                                                                     |                                  |                                                                                                |
| <b>1. 理念と共有</b>    |                                                                             |                                                                                                     |                                  |                                                                                                |
| 1                  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている      | 法人理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」の具現化に向け取り組んでいる。独自の理念としては「個人の尊厳が保たれる自分らしい暮らし」を掲げ日々のケアに取り組んでいる。 | ○                                | 理念の更なる理解と浸透が図れるよう努力していきたい。                                                                     |
| 2                  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                         | 職員の経験年数により理解の差があるので、日々のミーティングや研修等で学習の場を持ち、理念の実践に繋げている。                                              | ○                                | 理念は常に振り返りながら学習していく必要がある。理念に対する個々の意識が高まるよう、ミーティングや研修等において、実際の関わりをとおして理念の検証を行なうことで、各職員への浸透を図りたい。 |
| 3                  | ○家族や地域への理念の浸透<br>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる | 家族へはケアの方針を訪問時やケアプラン作成時に伝えている。地域へは運営推進会議を通じて伝えている。                                                   | ○                                | 家族との交流をとおして、ケアの方針等を理解してもらえよう取り組みも考えて行きたい。                                                      |
| <b>2. 地域との支えあい</b> |                                                                             |                                                                                                     |                                  |                                                                                                |
| 4                  | ○隣近所とのつきあい<br>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている   | 近隣地域の方々からの訪問交流は積極的に受け入れており、外出等の際には積極的に挨拶や会話をすることで近隣との関係づくりに努めている。                                   | ○                                | 相手の心を開く挨拶に心がけ、気軽に話しかけられたり、立ち寄ってもらえよう関係を構築に努めて行きたい。                                             |
| 5                  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている   | 地域の催しへは積極的に参加している。老人会、保育園児との交流も年数回行っており、定例の行事として位置付けている。                                            | ○                                | 老人会、保育園をはじめとする、地域の方々との訪問交流を通じて、地域の一員としての生活を送ることができるよう今後も支援していきたい。                              |

| 項 目                          |                                                                                                       | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                             | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                    |
|------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| 6                            | ○事業所の力を活かした地域貢献<br><br>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる                  | 運営推進会議において、ケアの実践と共に地域への発信についての意見交換をおこなったが、具体的な内容には至っていない。                                   | ○                       | 認知症ケアについての発信や相談に応じることのできるケアの充実に努め、地域へ積極的な働きかけを行なって行きたい。             |
| <b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b> |                                                                                                       |                                                                                             |                         |                                                                     |
| 7                            | ○評価の意義の理解と活用<br><br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                          | 自己評価の事前準備は担当を割り当てて実施した。集約する中で要改善となる項目については、全体へ投げかけて改善に向け取り組んだ。                              | ○                       | 評価を行なうことで新たな気づきを発見する事がある。職員皆が取り組むことで、ひとり一人の気づきが全体の気づきの力となるよう取り組みたい。 |
| 8                            | ○運営推進会議を活かした取り組み<br><br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている           | 評価の結果や改善点は会議にて報告している。特に地域への協力体制を密にとって行けるよう意見交換を行っている。                                       | ○                       | 運営推進会議での意見が実践に活かしていけるよう努めていきたい。                                     |
| 9                            | ○市町との連携<br><br>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 監査において町からのアドバイスを受けることがあるが、行き来する機会となると少ないのが現状である。                                            | ○                       | 運営推進会議等を通じて、町との連携のあり方について提起するなど、働きかけを行なって行きたい。                      |
| 10                           | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br><br>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している | これまで権利擁護について活用する機会がなかったこともあり、知識不足は否めないところである。学ぶ機会を多く持ち、理解を深めて行きたい。                          | ○                       | 権利擁護に関する学習の機会を持ち、必要となった際には活用し支援ができるよう努力したい。                         |
| 11                           | ○虐待の防止の徹底<br><br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている             | 虐待を捉えた職員研修を実施し学習の機会をもった。また、法人理念に「人権の保障」を掲げており、日々のミーティングにおいても理念と照らし合わせながら意見交換をおこなっているところである。 | ○                       | 今後も研修等において学習の場を持ち、更に意識を高めていければと思う。                                  |

| 項 目                                                                                       | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                         | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------|
| <b>4. 理念を実践するための体制</b>                                                                    |                                                                                                                                         |                         |                                                              |
| 12<br>○契約に関する説明と納得<br><br>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている            | 契約時には重要事項等、説明を行っている。疑問点、不安点においても納得が得られるまで説明を図っている。                                                                                      | ○                       | 入居者、家族の不安や疑問点において、安心と納得が得られるよう説明方法についても日頃から学習し内容把握に努めて行きたい。  |
| 13<br>○運営に関する利用者意見の反映<br><br>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている           | 職員は入居者から訴えられやすい存在であるよう、日頃の関わりから信頼関係の構築に努めている。また、苦情受付窓口を設置しており、法人の三者サービス評価へ委ねる仕組みも出来ている。入居者からの意見や不満は都度傾聴に努め、ミーティングにおいて共通認識を図り、対応を検討している。 |                         |                                                              |
| 14<br>○家族等への報告<br><br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている         | 毎月健康状態や金銭について書面をもって家族に伝えている。体調面においては随時、電話連絡にて状況を伝え安心に繋げている。                                                                             | ○                       | 暮らしの様子を分かりやすく伝えることで、家族からの思いや意向を引き出しやすい対応に努めていきたい。            |
| 15<br>○運営に関する家族等意見の反映<br><br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている           | 苦情についてのマニュアルもあり担当者により反映させられるようになってきている。意見はミーティングにて話し合いにより良いケアに繋がられるように取り組んでいる。                                                          | ○                       | 家族から聞かれた意見、要望等はミーティングにて提起し、チームが家族の思いを共有しながら課題の解決に向け検討して行きたい。 |
| 16<br>○運営に関する職員意見の反映<br><br>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                       | 月に1度運営委員会を実施しており、参加する委員からは現状から見える課題等について意見交換を行っている。                                                                                     | ○                       | 運営委員会に加えて、運営に関する提案などを身近な上司に相談したりすることで意見を反映させられると思う。          |
| 17<br>○柔軟な対応に向けた勤務調整<br><br>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている | 受診の対応が多いことから、勤務表を作成する際には必要人員を確保した勤務を組んでおり、常に臨機応変に対応出来るように対応している。                                                                        |                         |                                                              |

| 項 目                |                                                                                                                 | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                    | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                         |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| 18                 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 今年4月に職員の異動や体制の変更があり、混乱を招かないよう3月下旬より準備を図った。4月以降、入居者にとって大きな混乱はないが、環境の変化による不安が生じないよう、都度安心の声かけに努めている。                  | ○                       | 職員の異動や離職による、入居者への不安が生じないよう、馴染みの職員となっているものがフォローしながら対応していきたい。              |
| <b>5. 人材の育成と支援</b> |                                                                                                                 |                                                                                                                    |                         |                                                                          |
| 19                 | <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>              | 月に1度職員研修会を実施しており、内容についても年間計画を立てて実施してる。外部研修については、各種研修の案内を回覧しているが、情報を得る機会として回覧だけでは不十分なところもある。                        | ○                       | 研修の情報を得る機会を現状よりも多く持てるよう工夫していきたい。また、与えられる研修だけでなく、自ら学ぶ姿勢の喚起もあわせて行っていきたい。   |
| 20                 | <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>    | 昨年度より郡内のグループホームの職員が集まり情報交換を行う機会ができた実施している。                                                                         | ○                       | 互いのグループホームの取り組みを知り、関わりに活かしていくことで、ケアの質の向上とネットワークが構築できるよう、今後も交流の機会を大切にしたい。 |
| 21                 | <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>                                       | 職員親睦会として、親睦旅行や忘年会を年間行事として実施しているが、その他ストレス軽減に向けた工夫等について、具体的には行なえていない。職員間でのコミュニケーションを図り、意見を反映させたり、会話をする機会を今以上に増やせば思う。 | ○                       | 親睦会以外でのストレスの解消となる工夫を検討すると共に、上司となる者が職員の変化を見逃さないように努め、相談・対応できる体制の充実を図りたい。  |
| 22                 | <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>                           | 向上心については職員それぞれで差がでてくるものと思う。それぞれの勤務状況から仕事に対する意欲等の把握に努めたい。                                                           | ○                       | 個々の職員状況に応じたアドバイス等や助言を行なうと共に、やりがいや向上心を自ら生み出せるよう、プロ意識と専門性の追求を喚起し続けたい。      |

| 項 目                              |                                                                                                              | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                                   |
|----------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>      |                                                                                                              |                                                                                                                                |                         |                                                                                                    |
| <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b> |                                                                                                              |                                                                                                                                |                         |                                                                                                    |
| 23                               | ○初期に築く本人との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている                    | 事前面接にてアセスメントを行い、身体・精神状態、生活暦等の情報収集を大切にしている。また、入所後も「その人を知る」関わりを大切に、傾聴する事で、落ち着いた生活が送れるよう努力している。                                   | ○                       | 事前面接では本人の不安や困りごと等の思いを的確に把握し入居後の安心した生活へと繋がるよう努めていきたい。                                               |
| 24                               | ○初期に築く家族との信頼関係<br><br>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている                         | 利用前の事前面接を本人と家族を含めて実施している。入所後も落ち着いた生活が送れるよう、生活の継続性を図るためにも、家族からも意向を聞く機会を持っている。                                                   | ○                       | 事前面接での家族の思いや意向の的確な把握に努めると共に、入居後においても、新たな意向等がないか状況把握にも努めて行きたい。                                      |
| 25                               | ○初期対応の見極めと支援<br><br>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている                                 | 相談を受けた際は、その方の心身状態や家族の思いを伺い「その人らしく」生活して頂くには何が必要なのかを考えながら、時には当法人内での事業も紹介するなど、情報を伝えるようにしている。                                      | ○                       | その方の状態に合ったサービスの選択に繋がるよう当法人内のサービスについての情報提供を行っていききたい。                                                |
| 26                               | ○馴染みながらのサービス利用<br><br>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 事前面接時にアセスメントや概況表をもとに、本人や家族と相談しながら、共に住みやすい環境を整えるよう配慮している。利用前の施設見学等にも対応している。また、サービス開始時には不安や混乱を招かないよう、特に声かけを密にし意識的に寄り添うケアを心がけている。 | ○                       | 他者との関係や環境の変化が認知症の進行を招くことをしっかりと認識し、特に入居後は環境に慣れるまで不安・混乱のないよう声かけかけを十分に行い、意識的に関わっていききたい。               |
| <b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b> |                                                                                                              |                                                                                                                                |                         |                                                                                                    |
| 27                               | ○利用者と共に過ごし支えあう関係<br><br>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている                      | 生活する上で主体は誰なのかを常に意識し、職員は入居者の意欲が引き出せる関わりに努めている。また、職員は入居者を人生の先輩として敬う気持ちながら、生活時間を共有する中で、入居者の生き様から学ぶところは多い。                         | ○                       | 日々の関わりにおいては尊敬の念を持って関わることを常に意識し、謙虚な態度で接していききたい。生活の主体は入居者である意識付けが薄れることのないよう、自己を振り返りながら、点検確認をしていききたい。 |

| 項 目 |                                                                                    | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                              | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                             |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 28  | ○利用者を共に支えあう家族との関係<br><br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている       | 毎月、手紙等で状況の変化を伝えると共に、体調面で大きく変化した場合等はすぐに家族に伝えるようにしている。また、入居者が実家や家族の事を心配するあまり、不穏な状況が見られた場合には、家族へ連絡をとり、家族からの言葉をかけてもらうことで、安心につなげていけるような対応も行なっている。 | ○                       | 入居者が「その人らしく」生活して頂く為にも、ケアの方向性について家族と積極的に相談していきたい。また、家族との連携や関係づくりにも努力したい。      |
| 29  | ○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援<br><br>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している           | 入居に至るまでの、それぞれの家族関係を理解した上で、今後どうあることが入居者、家族にとって良いのかをミーティングでも意見交換することもある。                                                                       | ○                       | それぞれの家族のあり方を理解し、サービスを利用することで、入居者と家族との関係がより良い方向で深まることを目標に努力したい。               |
| 30  | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br><br>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている              | 以前生活してこられた背景をもとに、暮らし慣れた景色を眺めにドライブに出かけたり、農作業に親しんでこられた方には、畑にて草とりをしてもらうなど、個にあった環境づくりと対応を大切にしている。                                                | ○                       | 心身の状態から外出が叶いにくい方であっても、施設に友人を招くなどしながら、馴染みの関係性が継続が叶うような対応も目指したい。               |
| 31  | ○利用者同士の関係の支援<br><br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている              | 入居者個々の性格や生活史を把握し、入居者同士の関係性についても常に把握に努めている。家事を行なう中であっても、それぞれの入居者の状態に応じた役割を担ってもらい、入居者同士が支え合う生活となるように努めている。                                     |                         |                                                                              |
| 32  | ○関係を断ち切らない取り組み<br><br>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 入院等により契約終了となった方に対しても、退院後の生活の場について、家族や関係機関との調整を行なうこともあった。                                                                                     | ○                       | 当施設での生活もそれぞれ年数は違うが、家として生活してこられた方々であり、たとえ契約が終了しても、家族の不安等に対応できるよう、連絡をとっていききたい。 |

| 項 目                                                                                                            | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                          | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                                                           |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>                                                                           |                                                                                                                                                          |                         |                                                                                                                            |
| <b>1. 一人ひとりの把握</b>                                                                                             |                                                                                                                                                          |                         |                                                                                                                            |
| 33<br>○思いや意向の把握<br><br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                         | 生活の主体者は入居者である事を前提として、入居者の力を引き出せる関わりに努めている。認知症などにより意思表示が困難な場合は、その人に成り代わり、代弁者として支援していくように努めている。                                                            | ○                       | ひとり一人の思いや意向を大切にするケアの実践には「その人を知る努力」は欠かせない。その人の生き様を支えている事を自覚し、個を知る努力を怠らないようにしていきたい。                                          |
| 34<br>○これまでの暮らしの把握<br><br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                     | 入所前のアセスメントで得られた情報に加えて、日々の暮らしの中で現れたり、知る事が出来た馴染みや、生活歴、思い、意向などはミーティングでも情報として上げて、職員間で共有し共通認識が出来るように努めている。                                                    | ○                       | 伺い知る事ができた、生活史や思いや意向等はミーティングで上げて行き、常に職員間で共通認識を図って行きたい。                                                                      |
| 35<br>○暮らしの現状の把握<br><br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている                                           | 入居者の日々の過ごし方、心身状態の変化や有する力など、関わりの中での気づきは、毎日のミーティングで情報としてあげていき、共通認識を持てるように努めている。また、状況の変化が見られた際にも、都度ミーティングにて共有し、対応についても統一をはかりながら、より良い生活が叶うように努めている。          | ○                       | ひとり一人の一日の生活を、より良いものにしていく為、日々の関わりの中で状態の変化を見落とすことがないようにし、素早い対応が出来るように努めて行きたい。                                                |
| <b>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>                                                                             |                                                                                                                                                          |                         |                                                                                                                            |
| 36<br>○チームでつくる利用者本位の介護計画<br><br>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している    | 入居時のプランは本人と家族に直接話しを聞き、意向を捉え立案している。プランの変更に関しても、日々の生活を把握する事で、本人の思い、意向、課題等を捉え立案している。家族には、毎月状況を各担当から伝える事で、状態を知ってもらい、家族としての意向、思いが意見として出やすいように努めている。           | ○                       | プランの立案には、本人や家族と相談する機会を多く持ち、それぞれの思いがより反映できるようにしていきたい。また、職員全体もプラン作成に携わっていることがより意識できるよう、ミーティング等を活用しながら、アセスメントをより的確なものにしていきたい。 |
| 37<br>○現状に即した介護計画の見直し<br><br>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画は6ヶ月毎に定期的見直しを行っているが、それ以前にも心身の状態の変化が起きた場合には随時プランの変更を行なっている。身体状況の変化については都度、家族に伝えたり、毎月の便りで家族に状態を知らせる事で、リアルタイムに家族の意向が反映出来るようにし、家族の意向による介護計画の見直しの扉を開いている。 | ○                       | その時々状態に応じた介護計画になるように、状態を見落とすことなく、必要に応じて随時立案して行きたい。                                                                         |

| 項 目                             |                                                                                         | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                    | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                         |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|----------------------------------------------------------|
| 38                              | ○個別の記録と実践への反映<br><br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている         | 日々の変化や気づきは、都度、ミーティングにて情報を上げて行き、情報を共有している。また、ケース記録として、個々の入居者の記録をまとめ、アセスメントからモニタリングを行っている。その結果は介護計画に反映させ見直しに活かしている。  | ○                       | 職員一人一人の気づきを出し合う事で、全体でその情報を共有し介護計画の作成に活かして行きたい。           |
| <b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>        |                                                                                         |                                                                                                                    |                         |                                                          |
| 39                              | ○事業所の多機能性を活かした支援<br><br>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                    | 2階、3階との交流や、入居者の要望に合う様に、音楽や書き物、買い物や外出、野菜作り等、都度柔軟に対応し支援を行なっている。また、デイサービスと併設している事から、レクレーションへの参加やデイサービス利用者との交流を行なっている。 | ○                       | 併設しているデイサービスも上手く活用しながら、様々なニーズに対応できるように努力していきたい。          |
| <b>4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働</b> |                                                                                         |                                                                                                                    |                         |                                                          |
| 40                              | ○地域資源との協働<br><br>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している             | 地域のボランティアを積極的に受け入れており、清掃活動や入居者との交流を持っている。近接の学校、保育所からの交流の機会も持っている。消防署とは消防訓練時に職員の派遣を依頼し実地している。                       | ○                       | 学校からのボランティアグループ、地域の老人会からの交流もあるが、より地域と密接に交流していけるに努めて行きたい。 |
| 41                              | ○他のサービスの活用支援<br><br>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている  | 体調の変化に伴い利用者や家族からの意向による、他のサービスを利用することについては、件数は少ないが、その際には当法人内の特養のケアマネやスタッフとの連絡調整を行なった。                               | ○                       | 利用者や家族の意向に沿い、安心して他のサービスが活用できるように取り組んで行きたい。               |
| 42                              | ○地域包括支援センターとの協働<br><br>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 運営推進会議以外での地域包括センターとの連携は図れていない状態である。                                                                                | ○                       | 今後、地域包括支援センターとの連携を図って行きたい。                               |



| 項 目 |                                                                                                                                   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                    | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                          |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|---------------------------------------------------------------------------|
| 43  | ○かかりつけ医の受診支援<br><br>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                                | 入居前からのかかりつけ医の病院への診察を継続して行なっている。定期診察や状態の変化などが見られた際には随時の受診を行なっている。協力医療機関へ代わる際には家族と相談して納得が得られてから行なっている。               | ○                       | 医療機関との連携をとりながら、入居者が安心して生活していけるようにしていきたい。                                  |
| 44  | ○認知症の専門医等の受診支援<br><br>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している                                              | 近郊に認知症の専門医がいないため、専門医との密接な関係作りは出来ていないが、協力医療機関の医師やかかりつけ医に相談しアドバイスを受けている。                                             | ○                       | 地域の医療体制上、認知症の専門医との直接的な連携はとりにくい状況にあるが、必要に応じて、主治医からの診察を要にしながら、専門医につなげて行きたい。 |
| 45  | ○看護職との協働<br><br>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている                                                             | 看護員を配置し入居者の健康状態の把握に努め、定期の受診を行っている。また都度、相談しながら、受診が必要だと判断した時には医療機関への受診を行なっている。歯科衛生士による口腔相談も実施し、アドバイスをもらっている。         | ○                       | 更なる連携を図りながら日常の健康管理に努めたい。                                                  |
| 46  | ○早期退院に向けた医療機関との協働<br><br>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している                      | 入院に至った時は、随時病院に出向き状態の把握に努め、病院関係者からも情報をもらい退院後の対応についても検討している。                                                         | ○                       | 随時、病院との連携をとり、退院後にもスムーズに対応し入居者が安心して生活できるように努めて行きたい。                        |
| 47  | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br><br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している                                  | 看護師が常勤でない等、終末期ケアに対応する体制は整っていないが、本人や家族には事前に話をし、意向を伺っている。重症化や疾患による急変が予想される場合には、家族や利用者とも話をし、確認を行ないながら方針を共有出来るようにしている。 | ○                       | 利用者や家族の意向があれば出来る限り馴染みの生活を継続できるように、施設全体として対応できる、体制、技術、知識の向上を図って行きたい。       |
| 48  | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援<br><br>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 出来る事、出来ない事を随時、確認し見極めている。可能な限り馴染みの生活が出来るように、出来る事の幅を広げていけるように必要なことを検討し、可能な事は取り上げ、職員の技術や知識の向上に努めている。                  | ○                       | 可能な限り生活の継続が叶うように、現状の課題改善や工夫を重ねて努力していきたい。                                  |

| 項 目                                  |                                                                                                               | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                                            | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                                                                                |
|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 49                                   | ○住み替え時の協働によるダメージの防止<br><br>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | 入退居する際には本人、家族や担当ケアマネと情報を交換しながら入退居の時期やタイミングを検討し、混乱や不安が無いように努めている。                                                                                           | ○                       | 各関係機関と連絡を密にし、状況を都度確認し対応する事で入退居時の不安や混乱が起こらないようにして行きたい。                                                                                           |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>     |                                                                                                               |                                                                                                                                                            |                         |                                                                                                                                                 |
| <b>1. その人らしい暮らしの支援</b>               |                                                                                                               |                                                                                                                                                            |                         |                                                                                                                                                 |
| <b>(1) 一人ひとりの尊重</b>                  |                                                                                                               |                                                                                                                                                            |                         |                                                                                                                                                 |
| 50                                   | ○プライバシーの確保の徹底<br><br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                                        | プライバシー保護の為に個人情報情報はファイルにまとめ緊急時等にはいつでも職員が見られる様配置している。言葉使いに関しては人生の先輩として常に意識し、認知症の状態に応じた、分かりやすい言葉かけに留意している。また、言葉の乱れが態度の乱れに繋がることを認識し、職員同士で気をつけあっている。            | ○                       | 常に尊敬の念を持った言葉使いや態度に意識して関わって行きたい。言葉の乱れ、態度の乱れに関しては命令形や語尾のない言葉使いにならない様職員同士注意しあいながら対応して行きたい。                                                         |
| 51                                   | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br><br>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている                   | 入居者の思い、希望が気兼ねや遠慮により表出できない事がない様、職員は訴えられやすい存在でなくてはならない。日々の関わりから築きあげた信頼関係を基盤に入居者の思いに少しでも近づけるよう努力している。一人ひとりの認知症の状態に応じた説明や関わりの中で自らの意思表示が困難な場合は入居者の代弁者として対応している。 | ○                       | 個を知る努力を重ねていく上で「あてになる職員」を目指して行きたい。それには入居者とのコミュニケーションを大切に、対話の際には目上からではなく目線を合わせ分かりやすい言葉で話す事で信頼感が築けていけるものを考える。また、入居者の代弁者となる場合には人権に十分考慮しながら対応して行きたい。 |
| 52                                   | ○日々のその人らしい暮らし<br><br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している                          | その日その日の心身の状態や個別希望に配慮した充実した時の提供に努めている。午後の余暇時間には音楽や書き物等を予定しており、希望を伺いながら声かけすると進んで取り組む入居者や、外出や買い物へ出掛けるなど、個別に対応している。生活の主体は常に入居者である事を認識し合っている。                   | ○                       | 入居者からの訴えを待つばかりではなく、思いや希望を引き出せるよう関わりに努め、個々の入居者を知り一瞬、一瞬を大切に、笑顔が見られる過ごし方を常に意識して行きたい。                                                               |
| <b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b> |                                                                                                               |                                                                                                                                                            |                         |                                                                                                                                                 |
| 53                                   | ○身だしなみやおしゃれの支援<br><br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている                                     | 男性は施設の隣の理容室で散髪をされ、女性は近所の美容室がありそこへ出掛け毛染めやカットを行なっている。出掛ける事が困難な方は美容師に来てカットをしてもらっている。服装では汚れがあった際には交換するなど気をつけ、外出時には普段と違うおしゃれをし、ひとあじ違った雰囲気を感じて貰える様に心掛けている。       | ○                       | 身だしなみについては衣類の調整も行ない、暑がりの方や寒がりの方、個々に合わせた衣類の調整に留意している。入居者の方でも自ら化粧したりとおしゃれを楽しむ事のできる支援をして行きたい。                                                      |

| 項 目                           |                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                             | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                      |
|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-------------------------------------------------------|
| 54                            | ○食事を楽しむことのできる支援<br><br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている    | 毎月2回、入居者の希望を伺い、相談しながら献立を考える日を設けており、その際には食の話題で盛り上がり、希望のメニューも喜ばれている。食材の買い物や食事の準備等、後片付け等も入居者の状態に合わせて取り組んでもらい、職員も一緒になって作業をしている。 | ○                       | 献立については4月からの取り組みであるが、今後も継続して行きたい。                     |
| 55                            | ○利用者の嗜好の支援<br><br>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している         | 正月や地区の祭り際には、お酒を飲める方は飲んで頂き1年の中での楽しみの1つであって欲しい。お菓子や飲み物に関しては個々で買い物に出掛けたり、日中空腹の訴えがある方には購入し満足感を持って過ごして貰える様配慮している。                | ○                       | 食べ物を購入された際には、賞味期限に留意しながら職員が確認し古くならないように対応していきたい。      |
| 56                            | ○気持ちよい排泄の支援<br><br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している       | 当法人のケア理念として「排泄の自立」を掲げている。必要に応じて、排泄チェック表にて排泄パターンを把握したり、使用するパットにおいても限りなく少ないものに近づくよう、都度関わりを見直すなど個々の状況に応じて対応を行なっている。            | ○                       | 排泄時の声かけには自尊心に配慮し、他者に聞こえないよう意識しながら気をつけていきたい。           |
| 57                            | ○入浴を楽しむことができる支援<br><br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 1日おきに入浴する事を基本としているが、毎日の入浴を希望される方へも対応している。体調変化に留意しながら体調不良の方にはバイタル測定を行い、入浴が可能かどうか判断している。                                      | ○                       | 入浴を拒否される方もあるが、気持ちよく入ってもらえるような誘い方や関わり方を見出せるよう努力していきたい。 |
| 58                            | ○安眠や休息の支援<br><br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している                    | 日中は活動的に過ごしてもらい、夜間の安眠に繋がれよう、出来るだけ体を動かす機会を作っている。日中においても昼食後には居室で休まれ方もあるなど、個々の状況に応じて休めるよう対応をしている。                               |                         |                                                       |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |                                                                                     |                                                                                                                             |                         |                                                       |
| 59                            | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br><br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | ひとり一人の生活歴や楽しみごと、思い等の把握に努め、その人を知ることによってその人にあった役割を提供している。役割がある事で自身の存在感を感じられている入居者もある。また、役割を継続していけるよう、必ず感謝やねぎらいの言葉をかけるようにしている。 | ○                       | 入居者の心身の状況に応じた役割を見出すことが出来るよう、心身の状況把握に努めていきたい。          |

| 項 目             |                                                                                             | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                 | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                                 |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 60              | ○お金の所持や使うことの支援<br><br>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している        | お金の管理は事務所で管理している方が多いが、買い物を希望される入居者があれば、お金を手渡し入居者自身で支払いをしてもらう対応もしている。                            |                         |                                                                                                  |
| 61              | ○日常的な外出支援<br><br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                           | 外出する機会としては、散歩、美容室、買い物、畑、地区の催し物への参加等があり、都度入居者の希望を伺いながら外出の支援を行なっている。                              | ○                       | 自らの意思を表現することが難しい入居者に対しても、関わりを持つ事で希望を見出し支援していきたい。                                                 |
| 62              | ○普段行けない場所への外出支援<br><br>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している        | 地域の行事、季節の花見、1泊旅行など個人の希望を伺い支援している。他施設に入居している家族に会いに行く支援も行なっている。                                   | ○                       | 外出への意欲が沸くような勧め方も支援のひとつとして努力していきたい。                                                               |
| 63              | ○電話や手紙の支援<br><br>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている                                 | 家族からの電話が定期的にある方へは職員が受話器を近づける等の対応はしているが、入居者自ら電話や手紙の希望を伺うことは少ない。                                  | ○                       | 職員側が電話や手紙の希望は少ないと決め付けることのないよう、入居者へも投げかけていながら、新たなニーズがあれば対応していけるようにしたい。                            |
| 64              | ○家族や馴染みの人の訪問支援<br><br>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している                  | 訪問者はいつでも訪問いただける状況にある。訪問時には居室にてゆっくりと過ごせるよう配慮している。職員は訪問者に対して、気持ちの良い挨拶で迎えることで、気軽に足を運んでもらうように努めている。 |                         |                                                                                                  |
| (4) 安心と安全を支える支援 |                                                                                             |                                                                                                 |                         |                                                                                                  |
| 65              | ○身体拘束をしないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 介護に身体拘束はあってはならないものと考え、拘束のない介護を実践している。職員研修等でも身体拘束を取り上げ、人権侵害である事の理解を深める取り組みを行なっている。               | ○                       | 拘束のない自由な生活の保障に努める中であっても、人が生活する中においてはリスクは発生するものであることを認識し、リスクに対する対策についても検討を重ねていき、危険のないよう取り組んでいきたい。 |

| 項 目 |                                                                               | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                                             | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                              |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66  | ○鍵をかけないケアの実践<br><br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる    | 夜間は玄関・エレベーターの施錠をしているが、それ以外の時間帯は施錠していない。また、これまでベランダへ出る扉の鍵は職員のみ分かる場所で管理をしていたが、日中は施錠せず対応することで見直しを図った。鍵をかけ行動を抑制することも身体拘束と捉え、身体拘束のない介護の実践に努めている。 | ○                       | 鍵をかける、かけない限らず行動を抑制することは身体拘束と捉え、拘束のない介護の実践に努めいきたい。                                             |
| 67  | ○利用者の安全確認<br><br>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している               | 日中は常に職員が入居者の状態を把握できるよう、職員間での連携を図り、時には別ユニットの応援も得ながら対応している。夜間は排泄介助に関わりながら状態把握したり、居室へ伺いながら確認をしているが、施錠される方の確認については居室へ伺ってまでの確認は行っていない状況にある。      | ○                       | また日中体調の優れない際には居室にて休む配慮を行なっている。居室で休まれている事で目が行き届き難くならないよう、常に入居者の動きにアンテナを張り、転倒等の危険がないよう努めしていきたい。 |
| 68  | ○注意の必要な物品の保管・管理<br><br>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている       | 刃物はキッチンの目に触れない位置に保管しており、ライターなどの火の元については、現時点で使われる入居者はない。                                                                                     | ○                       | 危険と考えられるもの全てを排除してしまうことで、生活の中の潤いを失うことのないよう、入居者ひとり一人の状況に応じて、注意の必要な物品等の保管・管理のあり方に留意していきたい。       |
| 69  | ○事故防止のための取り組み<br><br>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる    | 緊急時の対応については、マニュアルを整備している。また、事故に至ってしまった際やヒヤリハットの事例があれば、ミーティングで原因を分析し、事故防止の対策を検討している。                                                         | ○                       | 事故に至る原因は、入居者ひとり一人の状態によって様々である。常にミーティングにて状態の変化を把握し、共有していくことで危険を予測し、予防の対策につなげるよう努力していきたい。       |
| 70  | ○急変や事故発生時の備え<br><br>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている              | 緊急時の対応については、マニュアルを整備しているが、定期的な訓練等の実施までは行なっていない。                                                                                             | ○                       | 誤嚥や転倒、急変時の対応について、職員の経験年数や、緊急時の対応経験の少ない職員は特に戸惑う事が予想されるため、定期的に訓練等を実施していきたい。                     |
| 71  | ○災害対策<br><br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 防災訓練実施の際には、参加が可能な入居者は避難訓練や消火器の取扱いについても参加してもらっている。また、運営推進会議にて、区長さんを通じて地元消防団への協力を働きかけてもらうことも行っている。                                            | ○                       | 地域との協力として、区長さんから消防団へ働きかけてもらえることは大きな前進と考える。今後も緊急時に協力を得る為にも地域交流も大切にしていきたい。                      |

| 項 目                        |                                                                              | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                           | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                  |
|----------------------------|------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 72                         | ○リスク対応に関する家族等との話し合い<br>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている | 体調の変化があった際には、家族へ連絡し経緯について説明をしている。心身機能の変化から今後予想される状況を家族と共有し、相談しながら対応をすすめている。                               | ○                       | その人らしい生活を送ることができるよう、家族の意向も伺い、相談しながら一緒になって良い方向へと取り組みを考えて行きたい。                      |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |                                                                              |                                                                                                           |                         |                                                                                   |
| 73                         | ○体調変化の早期発見と対応<br>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている           | 職員全体で入居者の状態を把握し、変化があればミーティングで情報を共有し合っており早い対応を行なっている。また、週に約2回、看護員を配置し専門的視点をもって、体調の変化を見逃さないようにしている。         | ○                       | 全体で状態を把握する中で確実な対応ができる様に関わっていききたい。また、必要に応じて受診につなげるなど、早期の対応を図ることで状態が悪化しないようにしていきたい。 |
| 74                         | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている           | 服薬の変更があれば、ミーティングにて報告を行い、全体で理解を図っている。服薬の種類、内容を示した物をファイルに綴り常備している。あわせて、服薬の変更・追加後があれば状態の変化に留意し様子を見るようにしている。  |                         |                                                                                   |
| 75                         | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる             | 排便状況は全体で把握を行う中で速やかな対応を行なっている。食事では食物繊維をなるべく取り入れるように努め、水分もより多く摂るように関わりをもっている。                               | ○                       | 下剤等を服用されている方もあるが、出来るだけ自然排便が望めるよう、水分、食事、運動のあり方を考えていきたい。                            |
| 76                         | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている                  | 毎食後の口腔ケアは確実にこなしているが、夕食後の口腔ケアは行っている。また、2ヶ月に1度、歯科衛生士の派遣を受け、口腔状態の把握や介助時のアドバイス等もしてもらっている。                     | ○                       | 毎食後の口腔ケアを行えるように関わっていききたい。                                                         |
| 77                         | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている      | 食事量に変化がある時は日誌に記載を行なうなどし、全体で把握できるように行っている。食事、水分が摂り難い状況がある時には飲食できる物を勧め、状況によっては高カロリーゼリー等を勧めるなど、食事量の確保に努めている。 | ○                       | 食事、水分が残りやすい方に関しては、原因等を分析する中で偏った食事にならない様に努めていきたい。                                  |

| 項 目                            |                                                                                                               | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                      | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                   |
|--------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 78                             | ○感染症予防<br><br>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）                                         | 感染症マニュアルを常に常備しており、流行前にはミーティングで対応について話し合い、予防へ取り組んでいる。                                                 | ○                       | 流行時期以外でも食事前には手洗いを確実にこなしていきたい。                                                      |
| 79                             | ○食材の管理<br><br>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている                                        | 毎週日曜日に食器をハイターで消毒を行う事を徹底し行なっている。まな板は随時、ハイターにて消毒を行う。食材はほぼ毎日購入しておりを、より新鮮で安全な食材を用いている。                   | ○                       | より安全な食事が提供出来るように努め、清潔面にも意識をしていきたい。                                                 |
| <b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b> |                                                                                                               |                                                                                                      |                         |                                                                                    |
| <b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>         |                                                                                                               |                                                                                                      |                         |                                                                                    |
| 80                             | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫<br><br>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている                              | 玄関先に入居者が植えた花を置き、外出の難しい方にも身近で手に触れ、見てもらえるように季節の花を飾っている。外出の際、靴の履き替えがしやすいように椅子を設置している。                   | ○                       | 季節感を感じてもらえるように、季節の植物を置き、植木鉢の手入れや水遣りを心掛けたい。玄関先や外灯周辺の清掃も都度行なって行きたい。                  |
| 81                             | ○居心地のよい共用空間づくり<br><br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居者が一日を通して長く集う食堂は、構造上西日が当たりやすい為、必要以上の光とならない様にカーテンで調整をしている。食事の時間には、食堂の入り口にのれんを下ろし、食事に集中出来る空間作りをしている。  | ○                       | その時期に合わせた装飾や植物を配置して、季節感を感じられるよう配慮して行きたい。暑い時期には、植物の痛みも早い為こまめに手入れをしていきたい。            |
| 82                             | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br><br>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている                              | 構造上、2階に比べると3階の方が入居者の集えるスペースが広く設けられており、開放感がある。3階の食堂前のローカに置かれたソファが活用度が高く、ここで音楽を聞いたり、話をしたりして過ごす様子が見られる。 | ○                       | 構造上、2階の和室は入居者からは目に付き難く、十分に活用されていない。冬の寒い時期などには炬燵を設置するなどして、入居者にくつろいでもらえるよう対応をしていきたい。 |

| 項 目                     |                                                                                           | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                          | ○印<br>(取り組んでい<br>きたい項目) | 取り組んでいきたい内容<br>(すでに取り組んでいることも含む)                                                               |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 83                      | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br><br>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室には、これまでに使い慣れた品々の持込が可能であり、仏壇や炬燵、テレビなどの家具を持ち込んでおられる入居者もある。                                                               | ○                       | 入居者によっては持ち込まれる物が少ない方もみられる。居室内にも季節感が感じられる様な空間を作りたい。                                             |
| 84                      | ○換気・空調の配慮<br><br>気になるにおいや空気の上のよみがえないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている    | 掃除の際は、窓を開けるなどして換気を行っている。トイレでは、使用後の紙オシメ等は臭いが出ないように早めに処分し、入居者に気持ちよく使用してもらえる様に対応している。                                       | ○                       | 冬場には、居室内に加湿器を設置しているが、水の補充を含め使用を徹底したい。又、加湿器に自ら触れて水が床に零れる事もあるので、安全な使用についても検討したい。                 |
| (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり |                                                                                           |                                                                                                                          |                         |                                                                                                |
| 85                      | ○身体機能を活かした安全な環境づくり<br><br>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している               | ローカや浴室、トイレ内には手摺りを設置するなど安全面での配慮をしている。エレベーターの前にも椅子を設置して、乗り降りの際に使用している。                                                     | ○                       | 浴室、浴槽への出入りが難しい入居者も見られる為、シャワーチェアを活用するなどして、危険のない様に対応して行きたい。                                      |
| 86                      | ○わかる力を活かした環境づくり<br><br>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している                         | それぞれの居室には表札を設置したり、トイレの場所が分かりやすいように目印を付けるなど、場所的失見当による混乱を防ぐよう配慮をしている。また、洗濯後の自分の衣類が心配な方には、自室内に洗濯物を干すことで、混乱や不安を取り除くよう対応している。 | ○                       | 入居者の心身の状況の変化に応じた対応のあり方について都度検討して行きたい。又、自室に洗濯物を干される時は、居室内の換気にも気をつけたい。                           |
| 87                      | ○建物の外周りや空間の活用<br><br>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている                                 | 天気の良い日には、玄関先で外気浴を行なえるように、長いすを用意している。施設の裏には畑があり、その日の気温や日差しなどを見ながら、畑での作業をする時間も設けている。                                       | ○                       | 畑への道が整備されたが、畑へ入るには段差があり危険である為、転倒などのないように十分気をつけたい。また、ベランダという空間が洗濯物干し場となっており、もっと活用出来ないか工夫して行きたい。 |

(  部分は第三者評価との共通評価項目です )



| V. サービスの成果に関する項目 (大空) |                                                  |                                                             |
|-----------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 項 目                   |                                                  | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                           |
| 88                    | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる                      | ○ ①ほぼ全ての利用者の<br>②利用者の2/3くらいの<br>③利用者の1/3くらいの<br>④ほとんど掴んでいない |
| 89                    | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある                         | ○ ①毎日ある<br>②数日に1回程度ある<br>③たまにある<br>④ほとんどない                  |
| 90                    | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている                            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 91                    | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている                 | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 92                    | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 93                    | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている                     | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 94                    | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている            | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 95                    | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ ①ほぼ全ての家族と<br>②家族の2/3くらいと<br>③家族の1/3くらいと<br>④ほとんどできていない    |
| 96                    | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている                 | ○ ①ほぼ毎日のように<br>②数日に1回程度<br>③たまに<br>④ほとんどない                  |

| 項 目 |                                                         | 取 り 組 み の 成 果<br>(該当する箇所を○印で囲むこと)                           |
|-----|---------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 97  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ ①大いに増えている<br>②少しずつ増えている<br>③あまり増えていない<br>④全くいない           |
| 98  | 職員は、生き活きと働けている                                          | ○ ①ほぼ全ての職員が<br>②職員の2/3くらいが<br>③職員の1/3くらいが<br>④ほとんどいない       |
| 99  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                           | ○ ①ほぼ全ての利用者が<br>②利用者の2/3くらいが<br>③利用者の1/3くらいが<br>④ほとんどいない    |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                       | ○ ①ほぼ全ての家族等が<br>②家族等の2/3くらいが<br>③家族等の1/3くらいが<br>④ほとんどできていない |

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当施設は平成16年4月1日に開設し今に至る。この間、当法人の基本理念である「人権の保障」「ノーマライゼーションの確立」「生きがいの創造」をケアの目標、判断基準とし取り組んできた。

基本理念に裏打ちされたケアの実践に努める中で、「その人を知る」ことを大切に関わっている。個を知る努力は「その人らしさ」の輝きを更に高める重要な関わりであることを肝に銘じ、個々が主体的に逞しく生きていくことへの関わりに努めている。

入居者の生きざまが様々であるように支援のあり方も様々だと考える。認知症であることで、ひとくくりにされることなく、ひとり一人の生活歴・人格・人生観を尊重した関わりを目指している。認知症ケアは、認知症という症状への対処・対応に止まることなく、自分が自分らしくあれる、個人の尊厳への支援と心得たい。

むらおかの空で暮らす日々が入居者にとっての生きる歴史に位置することを自覚し、その責任を認識しながら関わっている。入居者のこれまでの歴史とこれからの歴史、すなわち「その人らしい生き方・生き様」を支援していくことができるよう、職員は感性を高め真に入居者の心に添うことのできる存在を目指していきたい。